

精神保健福祉活動の実績報告書

1. 横浜病院の活動実績

- ① 院外関係機関（生活支援センター等）との連携による積極的な退院支援活動への取り組み
 退院啓発イベント：地域社会資源の紹介、OB・OGによる退院後の実体験紹介等の地域密着の情報提供

【実施例】

- ・平成18年から横浜市総合医療センター『かもめ座』協力のもと地域活動支援センター、グループホーム、ヘルパー等を紹介

退院支援プログラム：退院後のお金、住まいの説明による生活不安の解消

【実施例】（1回/月程度開催、15名程度の参加者）

- ・アパート・グループホームを紹介し、退院後の住まいについて
- ・デイケア・作業所を紹介し、退院後の日中の過ごし方について
- ・生活保護、家賃、食費等退院後の生活費等を説明

再発防止プログラム：再発防止による社会復帰への支援活動

【実施例】

- ・病気について（医師より）
- ・再発注意サインについて学ぶ（医師、PSWより）
- ・地域社会資源活用について学ぶ（当事者より）
- ・まとめ（医師より）

- ② 訪問活動の事業展開（訪問看護の拡充等）

平成21年度より看護師専任1名配置、精神保健福祉士兼務4名 計5名

・過去4ヶ年訪問実績 (単位: 件)

	19年度	20年度	21年度	22年度
件数	192	273	349	452

- ③ 院外関係機関への医師の嘱託、派遣への積極的取り組み

- ④ 無料低額診療の実施（生活困難者のための無料又は低額な料金での診療実施）

・過去4ヶ年無料低額診療実施実績 (単位: 人)

	19年度	20年度	21年度	22年度
実施件数	28,639	26,104	26,333	26,730
(総件数)	(106,607)	(95,376)	(95,219)	(100,723)

- ⑤ 精神科救急医療輪番体制の入院協力

- ⑥ 入院生活の充実を図る為、(社)日本精神科看護技術協会主催コーラス・コンクールへの参加

・過去4ヶ年参加状況 (単位: 人)

	19年度	20年度	21年度	22年度
参加人数	14	20	14	22
受賞等	コーラス大賞	コーラス大賞	最優秀賞	躍動感があったで賞

* 22年度はインフルエンザ流行の為、カセットテープにての参加

★横浜病院医師：精神科医16名（内精神保健指定医15名）、内科医3名

★精神保健福祉士：6名

法人名



財団法人 紫雲会

2. 生活訓練施設『ゆかり荘』の活動実績

入院の必要はないが、未だ回復途上にある精神障害者の方を対象に、平成7年に開設しました。住居を提供しながら、利用者の方が自立した社会生活を送ることが出来るよう専門知識を持ったスタッフが社会復帰に必要な生活技術等について指導・助言を行います。

ゆかり荘は現在、『援護寮事業』『地域生活推進事業』『自立生活アシスタント事業』の3事業を展開し、今までに数多くの精神障害の方の支援を行い、地域社会へ送り出しています。

1. 援護寮事業

入所定員 20 名、入所の為の体験 2 名の方が随時利用しています。

入所期間が概ね 2 年という期間内で自立生活を送る為の訓練指導は、以下の通りです

① 身辺整理・生活リズムについての助言・指導

日常生活の基本となる生活リズムを整える為に利用者一人ひとりの個性を尊重しながら自立に向けた助言・指導を実施しています。

② 規則正しい食生活についての指導

他利用者と共に役割分担し、買物・調理などを行い、「計画性」「自主性」「責任感」「達成感」等を感じながら退所後の単身生活の為の練習を行っています。

③ 対人関係についての助言・指導

対人関係が苦手な利用者向けの「SST」を職員が実施

※ゆかり荘事業報告書（SST実施報告）をご参照下さい

④ 通院・通所・服薬管理についての指導

通所先のある利用者に対しては、安定して通所が出来るような指導を行い、通所先が未定の利用者に対しては地域活動支援センターやデイケア等への見学から本通所までを退所後の生活基盤を見据えた助言・指導を実施

また通院や服薬は、精神の障害を持つ方にとっては、非常に重要なことなので、医療機関との連携を密に図りながら指導し、退所後の安定した生活継続しています。

⑤ 金銭管理についての指導

利用者の中には、金銭の使途・管理は苦手な方が多く、自立生活の為の金融機関の利用法から収支の把握・使途に至るまでの助言・指導を行っています。

⑥ 余暇の過ごし方についての助言・指導

健康の保持・増進の為にスポーツをボランティアの協力の下毎月実施し、楽しみながら健康維持や、利用者主体で種々のプログラム・イベントを企画・実施し、利用者同士、ボランティア、地域の方々との交流に力を入れています。

※ゆかり荘事業報告書（行事報告）をご参照下さい

⑦ その他

警察官による地域生活に関する研修、アパート勉強会、避難訓練や消火器訓練等実施し、退所後の安心した生活を送ることが出来るように指導を実施しています。

また、22年度は「医療観察法対象者」の単身生活設定も実現することが出来ました。

※利用者統計は、ゆかり荘事業報告書（年間利用者集計表）をご参照下さい

2. 地域生活推進事業

精神科医療機関に入院中の精神障害者が地域へ移行するための宿泊体験利用を実施しています。

☆制度利用実績 16名(平成20年度)、16名(平成21年度)、12名(平成22年度)

3. 自立生活アシスタント事業

単身生活をしている方や同居の家族が高齢、病気等の理由により支援することが出来ない方を対象に『心のヘルパー』として、地域生活が安全且つ安心して継続することが出来るよう事業開始当初より実施しています。

本事業は利用者への直接的支援の他、

①加齢による認知力低下を緩やかにする支援方法の試み(木曜お楽しみ会)

②自立生活アシスタント事業啓蒙活動(講演会など)

等を実施し、利用者が地域で孤立しないように考慮した活動も実施しています。

☆平成22年度利用登録者数 29名、年間支援対応件数 9,555件

※ゆかり荘の『援護寮事業』『自立生活アシスタント事業』に於いては利用者との協議の上「個別支援計画」を作成し、他社会資源と連携しながらの支援を実施しています。

職員体制

◆援護寮事業 … 施設長1名・指導員5名・嘱託医1名

◆自立生活アシスタント事業 … 3名

〈精神保健福祉士7名、薬剤師1名〉

3. 緑区生活支援センターの活動実績

緑区生活支援センターは平成 18 年 1 月に開設し、緑区及び北部近隣区の精神障害の方及びその家族を中心に『日常生活支援』に関して様々な手法を講じて実施しています。

事業は『地域活動支援センター事業』『指定相談支援事業』『地域移行・地域定着支援事業』『自立生活アシスタント事業』『生活支援事業』の 5 事業を柱に展開してきました。当法人や横浜市内の精神関連及び他障害関連機関との有機的は連携を図りながら、各事業を実施しました。

1. 地域活動支援センター事業

①統計（平成 23 年 9 月末現在）

項目	人数・件数	備考
登録者数	785 名	緑・青葉・都筑・港北の北部 4 区で約 60%
来所者数	30 名/日	当事者本人の来所数
電話相談	50 件/日	日常生活、対人関係、医療健康、就労、制度等についての相談や支援センターに対する要望など
面接相談	2.5 件/日	
非構造面接	6.5 件/日	フリースペース等での簡単な相談
囑託医相談	1.67 件/回	相談は本人と家族の方もいます
訪問・同行	19 件/月	定期訪問、他事業と絡めた訪問・同行
夕食サービス	19.5 名/日	地域活動ホームショートステイ利用者も利用
入浴サービス	0.83 名/日	入浴と洗濯サービスは、地域の特性として単身者が少なく同サービスは少ないです。
洗濯サービス	0.25 名/日	
インターネット	1.62 件/日	様々な情報入手と PC 操作の援助も実施

★訪問については、センター利用者においては、症状悪化時の対応として個別支援計画に基づき定期的な訪問を実施。

また、区福祉保健センター等より地域の相談による訪問の同行を行い、医療機関等の然るべき機関に繋げる支援等を行いました。

②家族に対する支援

家族会の定例会に参加し、家族としての相談や要望による講座を開催しました。

- 法人の精神科医による『リカバリーのための薬物療法』
- 家族会向けの『こころの病の理解と関わり方』

発症間もない精神障害を持つ家族への支援として区福祉保健センターとの共催により『家族教室』を講座・グループディスカッション形式で企画・開催（4 回シリーズで毎年 1 回）

③ボランティアの育成・支援

区福祉保健センター、緑区社協、地域活動支援センター、ボランティアグループ等による実行委員会形式でボランティア講座を企画・開催し、センターのプログラム等のボランティアとして数名繋がる事が出来ました。

④ピア活動の実施

ピアサポーターの登録制により、数名のピアの方による様々な講座等における『体験発表』や個別出張相談の相談員として活動して貰い、参加者や相談者のみならず、ピア本人も社会参加することにより、自信に繋げることが出来ました。

法人名



財団法人 紫雲会

⑤他機関や地域との連携

精神関連のみならず、他障害や行政、医療機関との有機的な連携により、当事者支援及び共催事業、普及啓発等が効果的に実施することが出来ました。

- 餅つき会、納涼会、バスハイク、クリスマス会等区内関係機関との共催企画
- 地域活動ホームとの連携による『秋祭り』に於いて、地域の方を対象に3障害に関する情報提供と交流が出来ました（5年連続開催）
- 緑区内全障害者施設と区福祉保健センターの共催により、全緑区民を対象に公会堂に於いて『音楽交流会』を開催し、情報提供と交流が図られました。

※緑区生活支援センターとみどり地域活動ホーム「あおぞら」との連携実績

内 容
◆相互の施設会議への参加により連携体制を深め、3障害支援を地域に周知
◆地域住民を対象に共同イベント「みどりコスモスフェスタ」を企画・開催
◆両施設を同時に利用している当事者に対する協働支援
◆両施設に関係している家族に対して『ケアカンファレンス』を通して協働支援
◆避難訓練・消火器訓練の共同実施
◆地域活動ホーム「ショートステイ利用者」への夕食サービス提供
◆相互の職員研修の為に「精神障害」及び「知的障害」の交換勉強会の実施

⑥関係機関や行政、地域ケアプラザ等との連携により、普及・啓発活動を実施しました。

内 容	こころの病気・社会資源・服薬・かかり方・リハビリ等の講座
対 象	他障害職員、民生委員、ケアマネ、家族、町内会・自治体、一般の方

※普及・啓発によって、生活支援センターの周知と病気と障害についての正しい理解が少しずつでも地域の方々に伝えることが出来ました。

- ⑦自主事業の実績については、別紙緑区生活支援センター「事業報告書」（行事報告）をご参照下さい。

2. 指定相談支援事業

- ★緑区生活支援センターは、『指定相談支援事業所』として、平成18年10月1日に神奈川県より指定を受け1次相談支援事業所として、相談支援を実施しています。
- ★電話相談・面接相談・非構造面接等、場合によって他機関に繋げる等の配慮をしながら、また必要に応じて『個別支援計画』を立て区福祉保健センター等とも連携を取りながら計画的・包括的な支援を行いました。
- ★地域と連携し、支援センターに来ることが困難（精神の施設に対して敬遠）な当事者やその家族、民生委員やケアマネ、他障害の支援者等を対象に『個別出張相談』を毎月1回実施し、医療機関や支援センターに繋げたり、またその場で解決することができ、好評を得ています。

法人名



財団法人 紫雲会

3. 地域移行・地域定着支援事業

①実績統計

本事業は、平成 19 年 8 月より受託実施しています。

4 年間の事業展開の中で、支援センター内の連携から、自立生活アシスタント、福祉保健センター、他精神関連内外の機関及び地域との連携により、多くの入院者の地域移行支援を実施しました。

《平成 23 年 10 月末》

対象者数	退院先	退院者数
22 名	アパート設定・自宅	3 名
	グループホーム	6 名
	生活訓練施設	4 名
	生活保護施設	2 名
	支援継続	5 名
	中止	2 名

入院期間	1 年以上	3 年以上	5 年以上	10 年以上	20 年以上	30 年以上
	5 名	9 名	2 名	4 名	1 名	1 名
年齢	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
		1 名	6 名	7 名	7 名	1 名
疾病別	統合失調症		感情障害（躁鬱病）		その他精神疾患	
	17 名		3 名		2 名	

※他障害との重複の対象者（3 名）含む

②北部ブロック内医療機関との繋がり

北部ブロック内の医療機関への本事業に於ける普及・啓発活動として、病院スタッフ、退院を目指している患者等を対象とした『出張プログラム（社会資源紹介・ピア体験発表）』を数回実施しました。

また、地域活動支援センター職員やグループホーム職員、ピアサポーターとの協働によって、院内普及啓発活動を実施しました。

※21 年度 A 病院：入院患者 16 名、家族 1 名、ピア 1 名、病院職員 22 名

※22 年度 A 病院：入院患者 22 名、家族 2 名、ピア 2 名、病院職員 6 名、関係機関 3 名

※22 年度 B 病院：入院患者 21 名、外来患者 7 名、ピア 1 名、病院職員 9 名

4. 自立生活アシスタント事業

本事業は平成 23 年度より受託、実施しています。単身者への個別支援を中心に、区福祉保健センター、関係機関等との連携を図りながら事業を展開しています。

緑区内には、知的障害者の自立生活アシスタントを実施している「中山みどり園」があり、相互の連携の下、定期的に区内連絡会を実施し、より良い支援を模索・検討しています。また、利用者への特性を考慮し、相互の関係の中で利用者の支援事業所を移行するなど「中山みどり園」との連携を図りながら支援しています。

※障害の重複や高齢の方への支援も多数実施しています。

	登録者	相談中	性別(男)	性別(女)	
	6 名	5 名	6 名	5 名	
年齢	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
	2 名	1 名	5 名	1 名	2 名
疾病別	統合失調症・身体表現性障害・知的障害・末梢神経障害・てんかん・摂食障害アルコール依存症・躁鬱病・高次脳機能障害の重複多数				

法人名



財団法人 紫雲会

4. 財団法人紫雲会の地域における精神福祉に関する協力実績

精神障害福祉に関して種々の機関からの依頼による協力実績

- ◆神奈川県障害者相談支援従事者初任者研修講師
- ◆県精連シンポジウム・シンポジスト
- ◆福祉保健センター障害支援担当業務職員障害者ケアマネジメント集合研修講師
- ◆区社協の依頼による講師（ヘルパー、ボランティア、町内会・自治会）
- ◆福祉系大学「精神保健福祉援助演習」講師
- ◆障害者支援センター講義講師
- ◆障害認定審査委員
- ◆第2期横浜市地域福祉計画策定委員
- ◆精神保健参与員
- ◆指定管理選定委員（緑区福祉保健活動拠点・霧が丘ケアプラザ）
- ◆横浜市相談支援事業従事者初任者研修演習インストラクター
- ◆相談支援システム検討会委員
- ◆緑区社会福祉協議会評議委員
- ◆福祉系の学校等実習受入（数校）
- ◆地域中学校ボランティア実習受入
- ◆神奈川区福祉保健センター嘱託医
- ◆日本産業医会役員
- ◆神奈川県精神保健協会役員
- ◆横浜市精神医学会役員
- ◆医療観察法鑑定医
- ◆神奈川県犯罪被害者連絡協議会会員
- ◆横浜市病院協会理事
- ◆神奈川県医療福祉施設協同組合部会員
- ◆横浜市社会福祉協議会部会員
- ◆精神保健福祉援助演習講師
- ◆運営委員会会長及び委員（グループホーム、地域活動支援センター、支援センター）
- ◆「精神保健福祉を推進する神奈川区の会」副理事
- ◆医療観察法研修会シンポジウム・シンポジスト
- ◆芹香病院デイケア「自立生活に向けて」講義・講師
- ◆神奈川区社会福祉協議会評議委員
- ◆地域活動ホーム「あおぞら」運営委員

財団法人紫雲会ホームページ

<http://www.shiunkai.or.jp/>

ゆかり荘ホームページ

<http://homepage2.nifty.com/yukarisou/>

緑区生活支援センターホームページ

<http://business4.plala.or.jp/midori01/>

法人名



財団法人 紫雲会